

たとえと解釈

(マルコ4・1～9)

一、なぜ二つあるのか

最初にお語りすることは、「なぜ二つあるか」です。何のことでしょうか。一つは、3節から9節に書かれている、主イエスが語られたたとえです。もう一つは、14節から20節に記されている、たとえの解き明かしです。

私共は、聖書をまっすぐに読むキリスト教会の流れにいます。それは良いことだと思えます。聖書は真っ直ぐに読むことによって、神の御力を経験するからです。ですが、そのような読み方をしますと、次のようになります。まず主イエスが、3節から9節のたとえを語られた。そのすぐ後に、あるいはご在世中に14節から20節の解き明かしを語られたと。ところが主イエスが語られたたとえと、たとえの解き明かしは、かなり内容が異なると言います。うか、方向性が異なります。解き明かしを伴わない元のたとえは、種をみことばと捉えるなら、「みことばは、とにかく蒔き続けるものである。すると、中には良い地に落ちるものがあり、その人は救われ、さらに救われた人が伝道して多く人が救われ、その結果を見て主をあがめ、主に感謝を献げる」となるのではないのでしょうか。すなわち、種を蒔

く側から語られた話です。

一方で、主イエス御自身が解き明かされたことばによれば、ずいぶん内容が変わってまいります。もはや種を蒔く人の話ではなく、種が蒔かれたときの、相手の心の状態によって、結果が変わってくるという話になっています。

そういうわけで、主イエスが語られたたとえと、たとえの解き明かしは、似ているようで、かなり異なります。それはそれでかまいません。たとえというのは、答えは一つではないからです。たとえは、聞いた側が自分の中で反芻し、何回も聞き取り、気がついてみれば、たとえの中に引きずり込まれている性格のものだからです。

もしこのたとえの意味が、14節から20節に書かれているものだけであるなら、3節から9節に記されている元のたとえは、極端に言えば、無くても良いことになります。

というわけで、次のように受け止めたらいかでしょうか。種をまく人のたとえを語られたのは、ご在世当時の主イエス、解き明かしを語られたのは、復活後の主イエス・キリストであり、聖霊であると。と言いますのは、たとえの解き明かしが、1世紀の教会状況と重なるからです。みことば、すなわちキリストの福音が伝えられても、受け入れない人は全く受け入れない。家族の中が、キリストを救い主と信じる者と信

じない者とで分かれてしまう。あるいは、すぐに信じて、すぐに離れて行ってしまふ人がいる。かと思えば、ウジウジして、神の国とこの世に二股をかけている信者がいたと思われまふ。「なぜ全員が成長しないのか」と教会は悩んだことでありまふ。マタイの福音書13章には「毒麦のたとえ」があります。これなんかはまさしく当時の教会状況を表していると思われまふ。ところがそういう状況にあっても、しっかりと信仰を持って教会を支え、伝道し、困難にも耐えて行く人が出てまいります。このちがいはどこにあるのか。それは、一人ひとりの心の状態に関係している。これが、1世紀の教会が聖霊によって、主イエス・キリストから聞いた解き明かしです。

二、元のたとえに聴く

ではたとえは、だれがどのように解釈したら良いのでしょうか。4章11節をご覧ください。そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです。」とあります。主イエスを信じる者は、キリストの福音と聖霊の導きによって、主イエスが語られたたとえの意味を解き明かすことが許されています。では、元のたとえから教えられることは何でしょうか。元は、あくまでも種

をまく人の視線から語られています。教会は種を蒔く者です。その意味は、みんなが同じ活動をするという意味ではありません。様々な種の蒔き方があります。たいせつなのは、みことばを蒔き続けることです。へ11テモテ4・2みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」とあります。あるいは、へガラテヤ6・8～9自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。失望せずに善を行いましよ。あきらめずに続けられれば、時が来て刈り取るようになります。」とあります。へ御霊に蒔く」とは、みことばを蒔くことです。

無理だと思っても、福音を蒔き続けるなら、突然変化することも考えられます。へ詩篇119・130みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまえない者に悟りを与えます。」とあるからです。

こうして、私たちがみことばの種を蒔き続けることによって、次の聖句が当てはまることでしょうか。へ1コリント15・58ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主において無駄でないことを知っているのですから。」と。